

SNS 上でコメントをする人の性質と傾向について

1250499 羽屋戸佑也

指導教員 小谷浩示

研究背景

現代では、SNS が普及し、誰でも簡単に情報の発信や閲覧と可能になった。それにより自らの意見を簡単に発信できる様になり便利になった反面、批判や誹謗中傷も簡単にできるようになった。SNS 上では、日々多くのことで炎上している場面を見かけ、炎上により一般人・芸能人問わず多くの人が苦しめられている。炎上は SNS にコメントが多く集まる事によって発生している。しかし、自分自身が SNS 上でコメントを書かないため、コメントを書いている人の性質やモチベーション、傾向を知りたいと思ったため。

研究目的

本研究は、SNS 上においてコメントをする人はどのような人がどのようなモチベーションや社会的背景を持ってコメントを書いているのかを明らかにすることを目的としている。

研究方法

ストレス尺度、主観的幸福度、SNS に関する利用状況を問うアンケートをクアルトリクスにて作成し、全国に住む男女から SNS 等を活用し調査・データ収集をした後、統計分析を行った。

分析結果

最終学歴が低い人、年収が高い人が SNS 上においてコメントを書きやすい傾向にあるということが示された。本研究で掲げた「ストレスを抱えている人ほど SNS 上にてコメントを各傾向にある」という仮説は棄却された。

考察・結論

SNS においてコメントを書くことにストレスがどのような影響を与えるかについて検証した結果、最終学歴が低い人、年収が高い人が SNS においてコメントを書く傾向にあるということが示された。最終学歴が低い人はレシーバとして、年収が高い人はプレイヤーとして SNS にコメントを書いていると考察できる。加えて、本研究に於いて SNS にコメントを書いている人は 30%程度となっており、必ずしもポジティブとは言えない様なコメントを書いている人は 5%程度に留まっていた。SNS においての「炎上」は、少人数の声が大きくなり拡散されそれが「炎上」につながっていると言えるのではないだろうか。